

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは5月29日(金) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		5月28日現在	6月の予想		(月末値)	
USD	ドル・円 (円)	159.24	152.0	~	164.0	159.0
	米金利高止まり観測と原油高懸念がドル円を下支え					
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.165	1.14	~	1.20	1.17
	ユーロ・円 (円)	185.53	181.0	~	191.0	186.0
ECBのインフレ警戒姿勢がユーロの下値を支える						
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.345	1.31	~	1.36	1.34
	ポンド・円 (円)	214.09	206.0	~	217.0	213.1
英ポンドは政治不安や原油高が意識され、対円・対ドルで上値の重い展開						
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	114.06	111.0	~	116.0	113.0
	NZドル・円 (円)	94.49	91.0	~	96.0	93.0
豪・NZ中銀ともに様子見フェーズから、上値の重い展開						
株式 相場	日経平均 (円)	64,693	62,000	~	67,000	64,000
	米国につられて上昇する際は調整に留意					
長期 金利	NYダウ (ドル)	50,669	48,500	~	53,500	51,500
	ハイテク株に見直し買いの動きが継続しよう					
長期 金利	日本 (%)	2.701	2.40	~	2.90	2.60
	日銀会合後、「骨太の方針」の大枠判明で、金利低下を見込む					
長期 金利	米国 (%)	4.447	4.20	~	4.60	4.40
	ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい					

◆ 今月の注目ポイント

日米金融政策と骨太2026の行方

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
FRB 議長交代	○	【日米金融政策】日銀会合が15-16日、FOMC会合が16-17日に控える。審議委員からの利上げへの前向きな発言もあり、6月日銀会合の利上げ織込みは8割程度まで進んでいる。また、国債買入れ額の減額ペースに関する中間評価では、足元の急ピッチな金利上昇を受けて2027年4月以降の減額を停止するなどの市場への配慮を示す可能性がある。一方、6月FOMC会合ではインフレ圧力の高まりを受けて、緩和バイアス修正といったタカ派なコミュニケーションが予想される。
	◎	【骨太の方針】中東情勢を受けて編成する2026年度補正予算案は3兆円程度になる見込みで、追加の赤字国債発行は抑制される見通し。財政悪化懸念による金利上昇は抑制された。一方、7月に公表が予定される「骨太の方針2026」では、成長戦略や消費減税、給付付き税額控除の方向性が示される。2027年度予算案の編成に向けた政権の姿勢が示されるため注目。積極財政に寄った内容となれば金利上昇圧力が上がりやすくなるため注意したい。

◆ アジア通貨見通し

	5月28日現在	6月の予想		(月末値)	
人民元・円	23.51	22.00	~	24.00	22.90
バーツ・円	4.877	4.75	~	4.95	4.80
ルピア・円	0.892	0.87	~	0.92	0.89

◆ 今月の重要日程

2日(火) 日 10年債入札	16日(火) 日 植田日銀総裁定例会見
5日(金) 日 5月雇用統計	17日(水) 米 FOMC(結果発表)
9日(火) 米 4月貿易収支	19日(金) 日 5月CPI
10日(水) 米 10年債入札	23日(火) 日 5年債入札
10日(水) 米 5月CPI	24日(水) 米 5年債入札
11日(木) 欧 ECB理事会(結果発表)	30日(火) 日 5月鉱工業生産

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

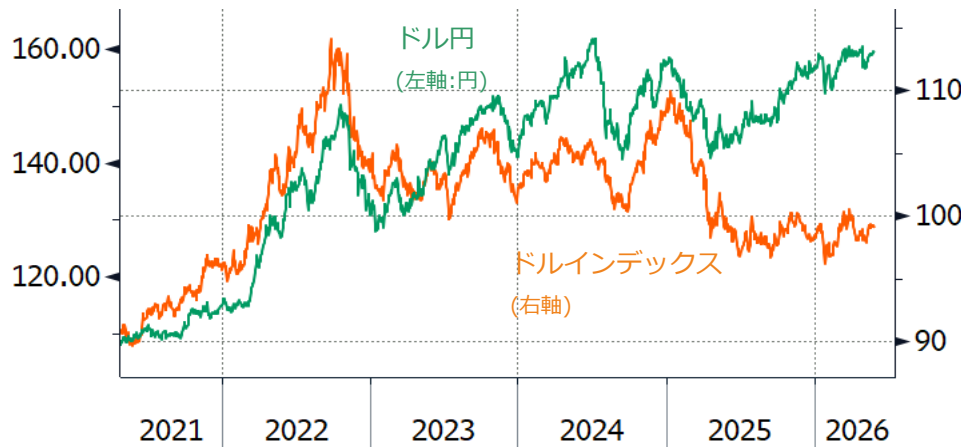
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

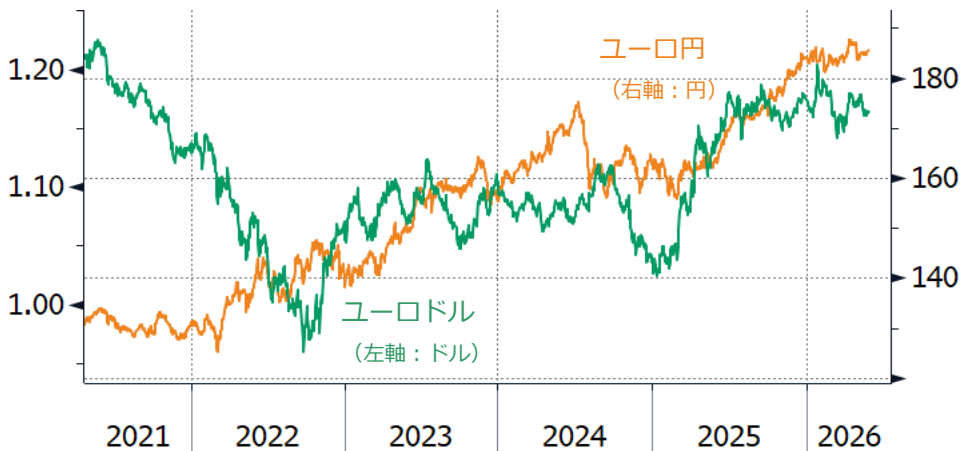
152.00 – 164.00円

米金利高止まり観測と原油高懸念がドル円を下支え

5月のドル円は、156円台半ばで始まったのち、次第に円安が進み、月末にかけては159円台半ばで推移した。月初は当局による為替介入とおぼしき動きもあり、介入警戒感から上値の重い場面もみられたが、その後は中東情勢を背景とする原油高が日本の交易条件悪化への懸念を強めたほか、日米金利差の拡大を意識した円売り・ドル買いが優勢となった。もっとも、160円付近では当局のけん制や介入警戒感が引き続き相場の上値を抑える展開となった。

6月のドル円は、引き続き150円台後半を中心とする値動きを想定する。FRBは4月会合で政策金利を据え置いており、足元でも米インフレ率は高めで推移しているため、6月のFOMCを前にドルは売られにくい地合いが続きやすい。また、中東情勢を巡る不透明感が残るなか、原油高懸念は日本の交易条件悪化を通じて円売り圧力となりやすい。もっとも、160円付近では当局のけん制や介入警戒感が意識されやすく、160円を明確に上抜ける余地はなお限られるとみる。また、日銀6月会合の直前など、追加利上げ観測が再び強まる場面では円買い戻しも入りやすいだろう。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

181.00 – 191.00円

ECBのインフレ警戒姿勢がユーロの下値を支える

5月のユーロは、対ドルでは上値の重い推移となった一方、対円では底堅く上昇した。対ドルでは1.17ドル台前半で始まったのち、月半ばにかけて1.18ドル手前まで上昇する場面もみられたが、その後はややユーロ安が進み、月末にかけては1.16ドル台前半で推移した。対円では183円台後半で始まったのち、月末にかけては185円台まで円安が進行した。ECBの利上げ観測がユーロの下値を支えた一方で、FRBの高金利維持観測を受け、対ドルでのユーロの上値は重かった。

6月のユーロは、対ドルでは底堅い推移、対円では高値圏でのみみ合いを想定する。ユーロ圏では、4月総合CPIが3.0%まで上昇しており、6月のECB理事会を控えるなかECBのインフレ警戒姿勢が引き続きユーロの下値を支えやすいだろう。一方で、中東情勢を背景とするエネルギー高を受けた景気下振れ懸念のほか、米FRBの利下げ観測後退もユーロの上値を抑えやすいとみる。対円では、高値圏での推移を想定するが、190円に向けて大きく上抜ける余地は限られよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

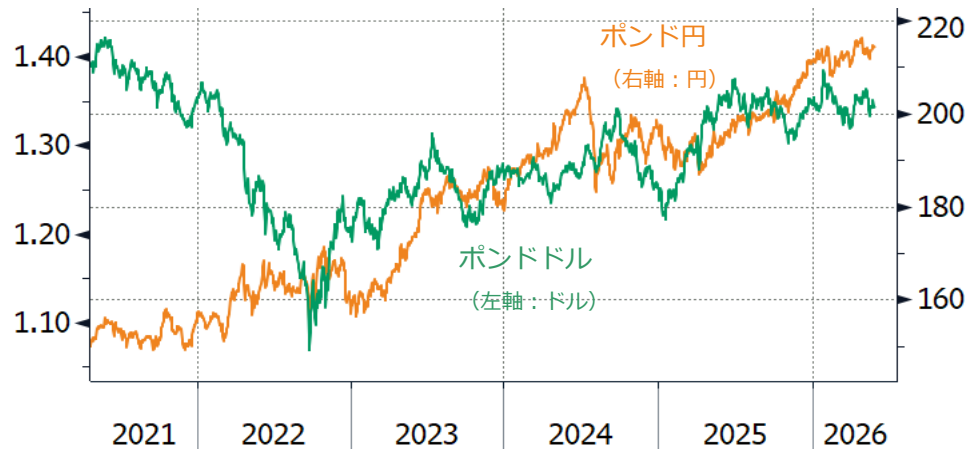
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



出所：Bloomberg

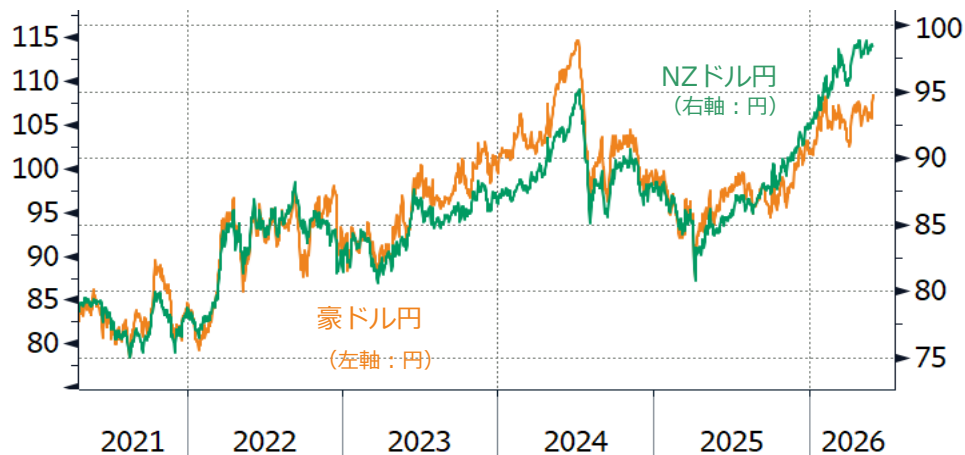
ポンドドル	1.31 – 1.36ドル
ポンド円	206 – 217円

英ポンドは政治不安や原油高が意識され、対円、対ドルで上値の重い展開

5月の英ポンド相場は、対ドル、対円で底堅く推移した。中旬以降は統一地方選の大敗を受けた与党・労働党内からのスターマー首相への退陣圧力や、スターマー氏の対抗馬になりうるバーナム市長が国政復帰を目指すとの表明から財政悪化懸念が生じ、英金利上昇、ポンド売りとなり、対ドルでは1.33ドル台、対円でも211円台まで下落。その後は米国とイランの停戦合意期待から対ドルで1.34ドル後半、対円でも214円台まで回復。

6月の英ポンド相場は下落しやすい展開を見込む。米国とイランの紛争終結には時間を要すると見込まれ、仮に終結しても当面は原油価格の高止まりが見込まれる。また、英国政治不安が完全に払拭されていないことから、対ドルでは売られやすいと見られる。また対円でも為替介入や6月日銀金融政策決定会合での利上げ確度の高まりから、上値の重い展開が見込まれる。但し、インフレ圧力からBOEも年内2回程度の利上げが織り込まれ、下落しても底堅く推移するだろう。

豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

豪ドル円	111.00 – 116.00円
NZドル円	91.00 – 96.00円

豪・NZ中銀ともに利上げ様子見フェーズから、上値の重い展開

5月のオセアニア通貨は豪ドル・NZドルともに堅調に推移した。豪ドルは、5月RBA会合での利上げに加え、タカ派な記者会見から一時114円台後半まで上昇。その後議事要旨を受け利上げ期待が後退し、雇用統計も弱かったことから112円台まで売られる場面もあったが、米国イラン戦争の落ち着きから、113円台後半まで回復。NZドルは27日のRBZN会合では据え置きだったが、データ次第としながらも7月会合での利上げを示唆するタカ派な内容で93ドル台まで上昇。

6月オセアニア通貨は上値の重い展開を予想。豪ドルは6月RBA理事会は据え置きが見込まれるが、インフレ圧力からタカ派な姿勢の維持が想定される。NZドルも7月会合での利上げの可能性が高い。FOMC会合でも同様にタカ派な姿勢の維持が想定されるため、対ドルではもみ合う展開を予想。米国イラン戦争の早期終結が見込みづらく、原油価格高止まりの長期化が予想される中で上値も重いであろう。対円ではRBAのタカ派な姿勢は継続すると見込まれるものの、日銀の6月利上げ確度が高まる中では上値の重い展開になりやすいであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

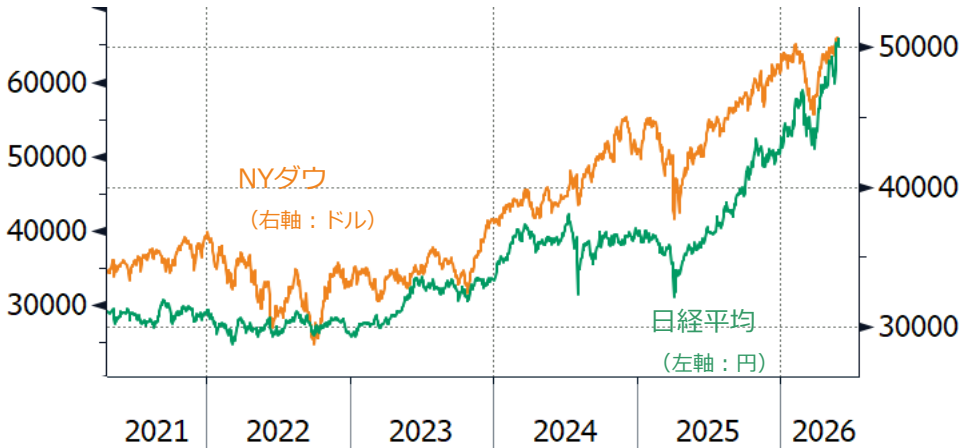
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



出所：Bloomberg

日経平均

62,000 – 67,000円

米国につられて上昇する際は調整に留意

ここも、米国でハイテク株高が続いているため、日本株もそれにつられて上昇する場面が多くみられる。しかし、日米でハイテク株の中身は大きく異なる。日本の主力ハイテク株は、半導体製造装置や材料関連企業である一方で、米国のハイテク株は半導体の設計などを担う企業である、それぞれ、サプライチェーンの下流と上流に位置する企業群であり、当然、業績改善のタイミングも異なる。足元で改善機運が高まっているのは上流企業であり、連れ高には調整リスクを伴う。

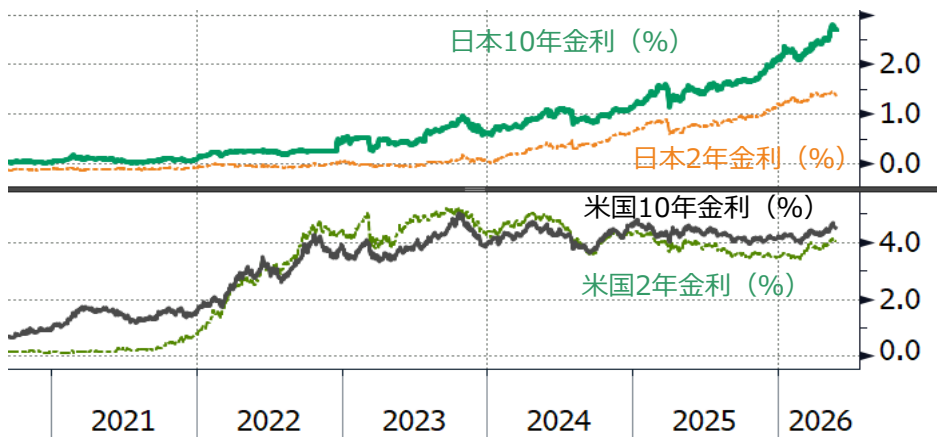
NYダウ

48,500 – 53,500ドル

ハイテク株に見直し買いの動きが継続しよう

一部の空売り投資家が、飛躍した論理によってAIバブルを警告したことを契機にセンチメントが低調となっていたものの、ファンダメンタルズに即した適正な評価が継続している点を歓迎したい。ハイテク株のファンダメンタルズは良好かつ、バリュエーションは低位なため、依然として上昇余地は大きい。加えて、米国経済は循環的回復局面を迎えている。物色の広がりが見られるようであれば、最高値近辺での値固めが期待できる。

長期金利見通し



出所：Bloomberg

日本国債10年

2.40 – 2.90%

日銀会合通過、「骨太の方針」の大枠判明で、金利低下を見込む

5月は原油価格高止まりを背景とした期待インフレ率の上昇や、日銀審議委員の増氏、小枝氏による利上げへの前向きな発言を受けて、10年金利は一時2.8%まで上昇。6月の日銀会合での利上げの織込みは8割程度まで既に高まっている。また、7月に「骨太の方針」の公表が予想されるが、徐々に内容が判明。そこで高市政権の今後の財政健全化への一定の配慮が見られれば、安心感につながり、金利上昇は一服するものと予想。

米国債10年

4.20 – 4.60%

ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい

米金利は4.20% – 4.60%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。ネルソン・シーゲルモデルによれば、短期金利は金融政策の見通し次第で大きく変動する余地があるものの、既に高止まりしている長期金利については、変動余地がほとんど残されていない。無論、センチメントによって長期金利が変動する場面も想定されるが、レンジの上限は裁定の機会と捉えるべきであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/5/29

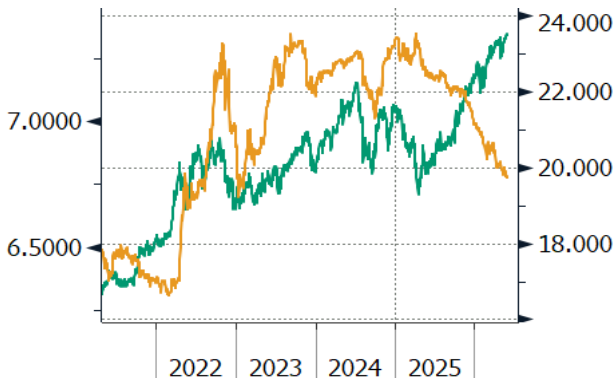
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

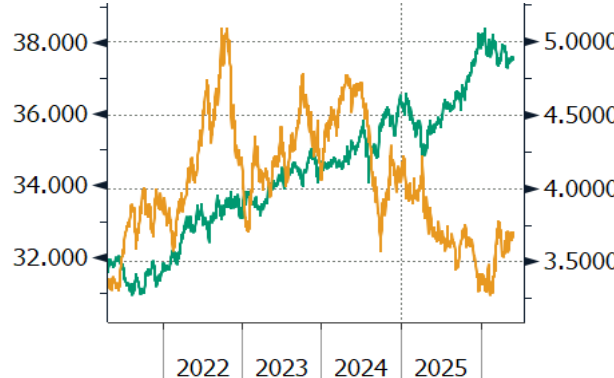
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		6月の予想		見通し
中国	人民元/円	22.00	~ 24.00	日米金融政策当局の引き締め動きから人民元は対円・対ドルで上値の重い展開 5月のドル/人民元は米国とイランの交渉に楽観的な見方が広がる中で、中国人民銀行(PBOC)が人民元高誘導をしたこともあり、対円・対ドルで堅調に推移した。6月は対円・対ドルで上値の重い展開を予想。日銀は25bpの利上げを実施する見込みであり、FRBも政策金利のバイアスを現状の緩和バイアスから中立にする見込み。5月は一方向の元高が進行していたが、スピード調整の動きとなろう。
	ドル/人民元	6.75	~ 6.85	
タイ	バーツ/円	4.75	~ 4.95	原油高による景気下押しとタイ中銀の利上げに慎重なスタンスから、対ドル・対円で軟調推移 5月のバーツ相場は米国とイランの交渉に楽観的な見方が広がる中で対円で堅調に推移した。一方、対ドルで上値の重い展開となった。タイ中銀の副総裁が「利上げを急ぐ必要はない」と発言し、政策金利1%は適切との認識を示したことも重石となった。6月のバーツ相場は対ドル・対円で軟調な展開を想定する。原油高を受けて経済情勢は依然厳しく、タイ中銀は利上げに慎重なスタンス。一方、日銀は25bpの利上げが見込まれるほか、FRBも金融政策バイアスを緩和方向から中立にすることが見込まれている。金融政策格差がバーツの売り材料となろう。
	ドル/バーツ	31.5	~ 33.0	
インド	100ルピア/円	0.87	~ 0.92	原油高が続く中、資金流出や経常赤字懸念がくすぶり、対ドル・対円でルピアは軟調推移 5月のルピアは米金利高止まりやインドネシア財政悪化懸念を背景に、海外投資家による資金流出圧力が強まり、対ドルで下落した。円は介入効果一巡で他通貨では戻りを試す展開となったが、ルピアは対円で下値模索の展開となった。インドネシア中銀は通貨安抑制に向けた市場介入を続けているものの、原油高が続く中で6月も海外への資金流出懸念や経常赤字等ファンダメンタルズ面で売られやすい。対ドル・対円で弱含む展開を見込む。
	ドル/ルピア	17,500	~ 18,500	

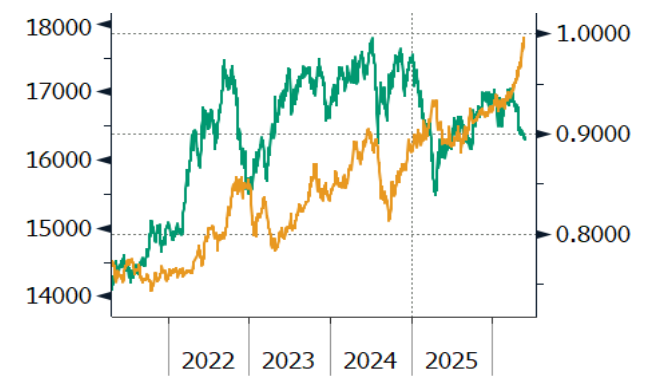
—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/5/29

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年						2027年			ポイント			
		6月		7~9月		10~12月		1~3月						
ドル円	レンジ	152	~	164	145	~	165	145	~	165	145	~	170	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。FRBの利下げ観測後退も日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	159		155		155		160						
ユーロドル	レンジ	1.14	~	1.20	1.12	~	1.24	1.12	~	1.24	1.12	~	1.24	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて25年春より急速にユーロ高となった。足元では中東情勢悪化を受けたドル買い戻しやFRBの利下げ観測後退からユーロはやや軟調に推移しているが、ECBの利上げ観測などもあり底堅い推移を見込む。
	期末値	1.17		1.18		1.18		1.18						
ユーロ円	レンジ	181	~	191	175	~	195	175	~	195	175	~	195	政治不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。米国とイランの早期停戦合意の実現は難しく、対ドルではドルが強含みややすい展開を予想。対円では為替介入や6月の日銀政策決定会合での利上げ確度の高まりから上値は重くなると予想。
	期末値	186		183		183		188						
ポンドドル	レンジ	1.31	~	1.36	1.29	~	1.35	1.28	~	1.34	1.28	~	1.34	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。足元とは元高を一定程度容認したように見えるが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではないであろう。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでの一方向の元高はなくスピード調整は見られるであろう。
	期末値	1.34		1.32		1.31		1.31						
ポンド円	レンジ	206	~	217	202	~	209	200	~	208	200	~	208	豪中銀の利上げは様子見段階に入るも、米イラン戦争の長期化懸念に伴うインフレ圧力から高止まりの展開を予想。
	期末値	213		205		203		203						
ドル人民元	レンジ	6.75	~	6.85	6.86	~	7.01	6.84	~	6.99	6.83	~	6.98	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さや原油高が逆風となりやすい。
	期末値	6.77		6.93		6.91		6.90						
人民元円	レンジ	22.2	~	24.0	20.6	~	24.0	20.7	~	24.1	20.8	~	24.1	
	期末値	23.5		22.4		22.4		22.5						
豪ドル円	レンジ	111	~	116	107	~	114	105	~	112	105	~	112	
	期末値	113		110		108		108						
タイバーツ円	レンジ	4.75	~	4.95	4.60	~	5.00	4.60	~	5.00	4.50	~	4.90	
	期末値	4.80		4.80		4.80		4.70						

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
6/1(月)	1-3月期法人企業統計調査	5月ISM製造業景況指数	(中) 5月製造業PMI	6/16(火)	植田日銀総裁定例会見	20年債入札	(豪) 準備銀行理事会
6/2(火)	10年債入札					5月住宅着工・許可件数	(中) 5月生産・小売・投資
6/3(水)		4月製造業受注 5月ADP雇用統計 5月ISM非製造業景況指数 米地区連銀経済報告		6/17(水)	4月機械受注 5月貿易統計	5月小売売上高 FOMC (結果発表)	(独) 6月ZEW景気指数
6/4(木)				6/18(木)		6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(英) BOE金融政策委員会
6/5(金)	4月家計調査 4月毎月勤労統計 (速報)	5月雇用統計		6/19(金)	5月消費者物価指数 日銀金融政策決定会合議事要旨(4/27~28開催分)	(奴隷解放記念日)	
6/8(月)	1-3月期GDP (二次速報値) 5月景気ウォッチャー調査			6/22(月)			
6/9(火)		3年債入札 4月貿易収支 5月中古住宅販売		6/23(火)	5年債入札	2年債入札	(欧) 6月PMI (速報値)
6/10(水)	30年債入札 5月企業物価指数	10年債入札 5月CPI	(中) 5月CPI	6/24(水)		5月新築住宅販売 5年債入札	(独) 6月IFO企業景況感指数
6/11(木)		30年債入札 5月PPI	(欧) ECB定例理事会	6/25(木)	20年債入札	1-3月期GDP (確定値) 5月個人所得・消費支出 7年債入札	
6/12(金)				6/26(金)			
6/14(日)			(他) G7首脳会議 (於仏エビアン) (~16日)	6/29(月)			
6/15(月)		6月NY連銀製造業景気指数		6/30(火)	2年債入札 5月鉱工業生産 5月労働力調査	6月消費者信頼感指数	(中) 6月PMI

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/5/29

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/8~14】

◎ 4月の新車販売は2.5%減、国内低迷続く

中国自動車工業協会が11月発表した2026年4月の新車販売台数は、前年同月比2.5%減の252万6,000台だった。5カ月連続の落ち込みで、前月の0.6%減から減少幅が広がった。国内販売の低迷を、急拡大する輸出が補う形が続いた。国内市場は「新エネルギー車（NEV）」購入税の見直しなどが響いて振るわず、今月3日まで開かれた北京モーターショーに合わせた新車投入も販売回復の起爆剤にならなかった。

【5/15~21】

◎ 外資の対中直接投資、1Qは2.4倍

中国国家外貨管理局が発表した2026年第1四半期(1~3月)の国際収支(速報値)は、海外から中国への直接投資(FDI)が343億米ドル(約5兆4,500億円)だった。前年同期から2.4倍に増えた一方、中国から海外への流出額は444億米ドルで、FDIは101億米ドルの純流出となった。モノ貿易は2,474億米ドルの黒字、サービス貿易は596億米ドルの赤字で、このうち旅行は473億米ドルの赤字だった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4
実質GDP成長率	%	5.2	-	-	4.8	-	-	4.5	-	-	5.0	-
消費者物価上昇率	%	0.1	0	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2
都市部調査失業率	%	5.0	5.2	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2
輸出額	10億ドル	324.7	321.2	321.3	328.2	304.9	330.0	357.3	356.6	299.8	321.0	359.4
輸入額	10億ドル	210.8	223.8	220.2	239.3	216.6	219.6	244.2	234.8	209.3	270.5	274.6
経常収支	100万ドル	288,731	-	-	491,201	-	-	735,022	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.18	7.17	7.17	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○睡眠経済が拡大

睡眠研究会が発表した最新の「中国睡眠健康研究白書（2026年版）」によると、国民（調査対象は約25万人）の夜間睡眠時間は平均6.79時間で、政府が健康指標として掲げる7～8時間には届きませんでした。不眠を訴える人の割合が高く、全体の約6割が週に1～2回の睡眠トラブルを経験し、5割弱が睡眠への不安を抱えています。

この「眠れない」状態が、中国の「睡眠経済」を拡大させています。「睡眠経済」とは、より良い睡眠を得るための商品やサービスを生み出す市場全体を指す言葉です。

調査によると、中国の睡眠経済の市場規模は2025年に5,737億元（約12.6兆円）に達し、2030年に1兆元（約22兆円）を超えると予測されています。背景には、健康意識の高まり・就業ストレスの増加・スマートフォンへの依存などの原因があります。

現在、若者の間では「スマート睡眠サポート製品」の人气が高くなっています。AI技術等を活用し、生体情報や環境データをリアルタイムで収集することで、睡眠の質を管理するデバイスです。睡眠サポート製品消費者の半数が、スマート製品を購入・使用した経験があるとの統計もあります。製品の品質にはバラつきが多く、誇大広告も横行しています。監督部門に対して市場規範を整備し、品質を保証するシステムを構築すべきとの声も高まっています。



○なんでもレンタル可能

近年、政策支援と市場需要を背景に、中国内のレンタル消費は急速に拡大しています。レンタル消費は、緊急時における必需品利用から徐々に日常生活へ浸透してきました。

今年の労働節（5月1～5日）では、国内旅行需要が非常に高まる中、「買わずにレンタル」が消費者の新たな選択肢になりました。車、伝統的な衣服・アクセサリー、撮影機材、キャンプ用品に至るまで、「なんでもレンタル可能」の流れは、労働節の文化観光市場にも押し寄せました。

各地の人気観光スポットで記念写真を撮影する人がますます増える中、撮影機材を持っていない人も、自宅にはあるものの持参しなかった人も、カメラをレンタルすれば問題は解決できます。また北京市怀柔区にある山岳キャンプ場では、テントのタープ、折りたたみ式テーブルや椅子、鍋や食器類等、一式のキャンプ用品がレンタル可能です。料金は300元（約7,000円）程度であり、直接購入するよりも数千元も節約でき、収納や運搬などの心配を省けます。

また実店舗でレンタルできるだけでなく、多くのECプラットフォームアプリで、レンタル機器をワンクリックで予約し、指定の場所で受け取りと返却が可能です。

中国大手のプラットフォーム企業である美团（メイトゥアン）のデータによると、今年に入り「ドローンレンタル」の検索数は前年比10倍以上増加しました。また、「カメラレンタル」は前年比67%増、「バースデードレスレンタル」・「漢服レンタル」の検索数も、それぞれ前年比110%以上、30%増加しています。検索ユーザー層では、20歳から35歳が約7割を占めています。北京・上海・成都・西安・深圳等の主要都市がレンタル経済の中心となっており、特に若年層を中心に「所有」よりも「体験」を重視する消費傾向が強まっています。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/5/29

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2026年3月のタイ経済、前月から横ばい

- ・タイ中央銀行は2026年3月のタイ経済は前月から横ばいとなったと発表した。工業生産や輸出、政府支出の増加が下支えした一方、一部で中東戦争の影響が表れ始めている。
- ・**製造業**：石油製品や自動車、食品・飲料等の生産増により、製造業全体の生産は前年同月比+0.75%上昇した。一方、ゴム・プラスチック、電化製品等の生産は減少した。
- ・**民間消費**：民間消費は前年同月比+3.6%と前月の+3.9%から小幅縮小した。サービス部門の支出減少が主因。他方、燃料や日用品の価格上昇への懸念から、一時的に駆け込み購入がみられた。
- ・**民間投資**：民間投資は前年同月比+11.8%と前月の+18.9%から低下した。中東情勢の影響はまだ明確に表れていないものの、これまでの前倒し投資の反動で伸びが緩やかになった。設備投資では、電気機器を中心とした資本財の輸入減少が影響した。建設投資では、非住宅建設が減少した。
- ・一方、2026年第1四半期（1～3月期）の国内総生産（GDP）が前年同期比+2.8%となり、前期の+2.5%から加速した。電子製品を中心とした輸出や民間投資の拡大が下支えした。

◆2026年3月の輸出額、過去最高を記録

- ・タイ商務省によると、2026年3月の輸出額は前年同月比+18.7%の約5兆5,800億円相当だった。AIや半導体の高まる需要を受け、単月ベースで過去最高を更新した。一方、中東向けは▲57.1%と落ち込んだ。主要工業製品が+21.4%、農産物・加工品は+1.1%だった。
- ・主要向け市場では、米国+41.9%、欧州連合+21.9%、日本+9.1%、インド+140.6%だったと引き続き堅調だった。一方で、中国向けは▲1.1%とマイナスに転じた。

◆法人登記、7月から全面電子化

- ・タイ商務省事業開発局（DBD）によると、7月1日から法人登記手続きをデジタル登記システム「DBD Biz Regist」を通じて全面電子化する。登記の手間と費用の軽減が狙い。

◆60日間ビザなし滞在、30日に短縮

- ・タイ政府は5月19日、日本を含む93カ国・地域を対象に入国査証（ビザ）免除期間を60日間から30日間に短縮することを決定した。今後、年間複数回の最大滞在日数についても制限を設ける方針。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4
実質GDP成長率	%	2.8	-	-	1.2	-	-	2.5	-	-	2.8	-
消費者物価上昇率	%	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9
失業率	%	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	-
輸出額	100万ドル	28,641	28,581	27,743	30,971	28,836	27,446	28,928	31,573	29,440	35,157	-
輸入額	100万ドル	27,417	28,259	29,708	29,696	32,272	30,172	29,280	34,876	32,273	38,497	-
経常収支	100万ドル	3,212	989	-418	2,174	-1,914	-1,609	3,094	533	2,116	600	-
外貨準備高	10億ドル	262.4	261.9	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0
主要政策金利	%	1.75	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	バーツ	32.6	32.4	32.5	32.0	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

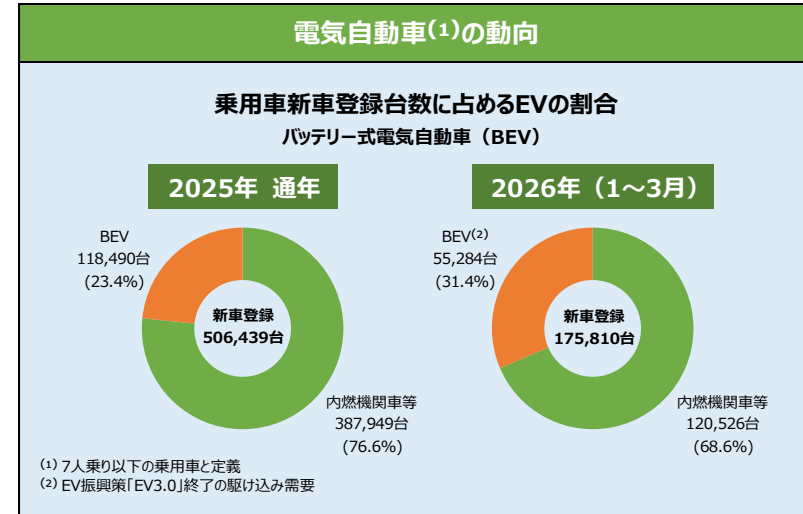
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年6月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

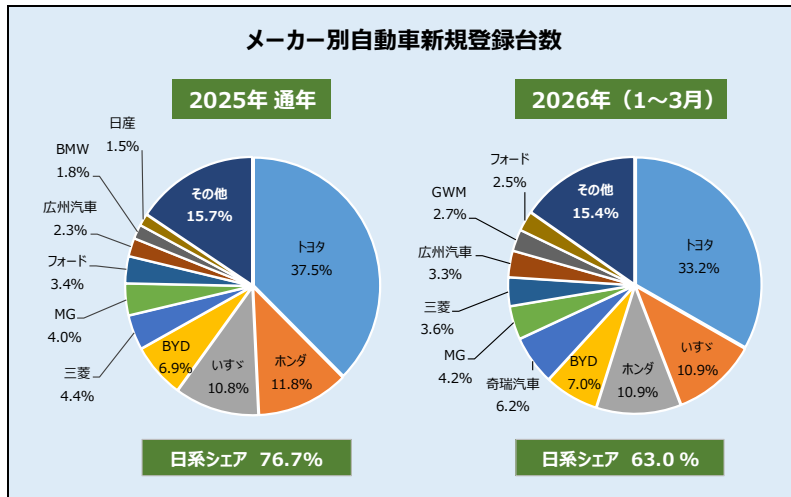
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向								
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1~3月)	前年同期比 (%)	3月	
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	119,949	100.4	43,463
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	249,802	107.9	89,950
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	369,751	105.3	133,413
	国内販売台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	65,275	112.1	22,526
	商用車	483,275	348,527	381,930	116,768	123.0	37,339	
	合計	775,780	572,675	621,166	182,043	118.8	59,865	
	輸出台数	1,117,539	1,019,213	935,750	219,994	98.0	80,394	
二輪	生産台数	2,120,738	1,887,208	1,972,902	502,927	94.6	192,893	
	国内販売台数	1,856,814	1,683,239	1,711,846	468,609	102.9	163,684	
	輸出台数	822,608	938,762	893,198	252,173	104.2	100,507	
【完成車輸出金額】(百万バーツ)								
四輪		719,992	699,163	621,662	146,219	93.9	53,763	
二輪		68,589	63,969	61,596	18,232	104.0	7,794	

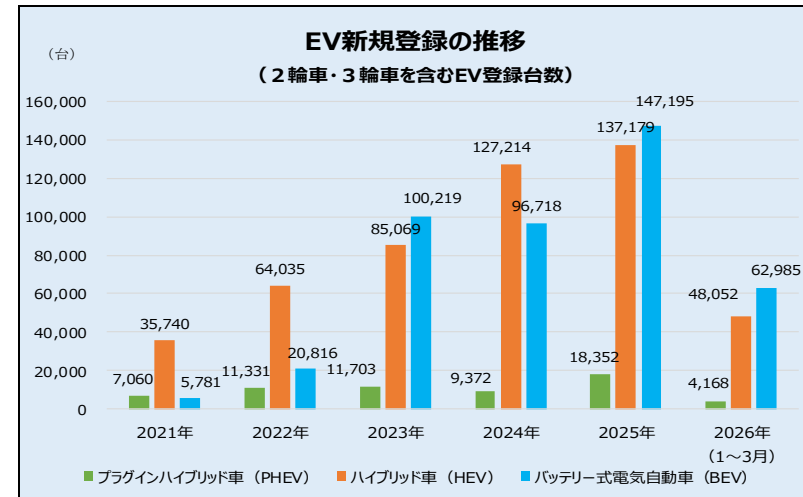
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。